

「10 月度研修会」 報告

修習技術者支援実行委員会
委員：濱本 宏
技術士(農業部門)

1. 研修会概要

日 時 平成 24 年 10 月 13 日 (土)
13:00～20:00
主 催 公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会 場 日本技術士会荳手第二ビル 5 階

2. 研修会の内容

I. 研修会 司会	鳥養 茂
開会挨拶 修習委 委員長	13:00～13:05 榊 勲
研修会案内 進行役	13:05～13:15 鳥養 茂
講演「技術者倫理の入口」 金沢工業大学 科学技術応用 倫理研究所客員教授	13:15～14:45 大来雄二氏
【休憩】	14:50～15:05
実習「ケースメソッド」 日本技術士会理事 (情報工学部会)	15:05～17:30 川畑真一氏
総合まとめ 日本技術士会理事 修習委員会	17:30～17:45 川畑真一氏 鳥養 茂
II. 情報交流会 司会	17:45～20:00 高橋裕二

3. 研修会の参加者

研修会の参加者は 17 名であった。参加者の構成は図-1 に見る通りである。

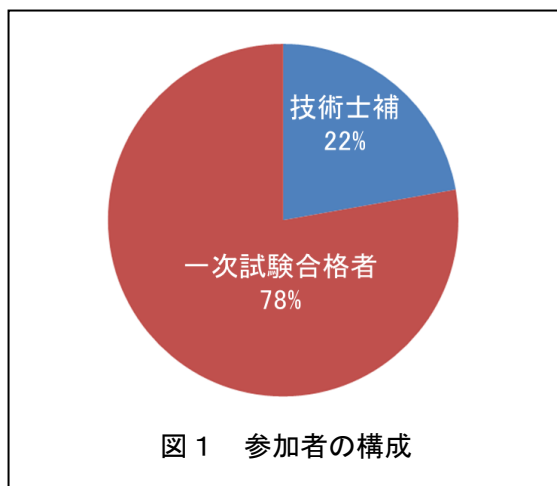


図 1 参加者の構成

また、参加者が講座開催を知った方法と講座参加の動機をそれぞれ図-2、図-3 に示す。

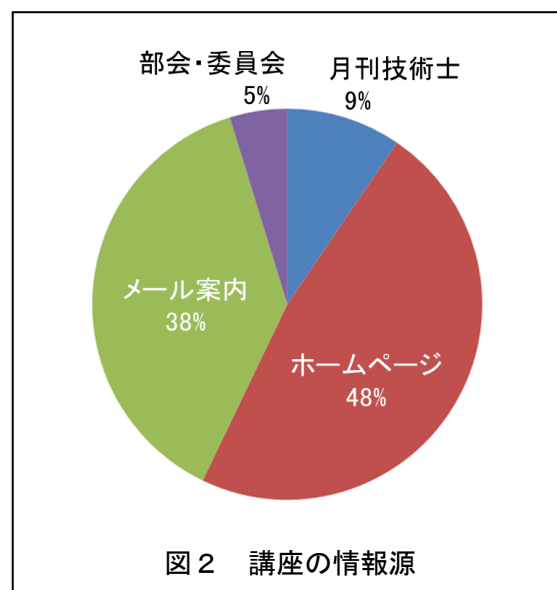


図 2 講座の情報源

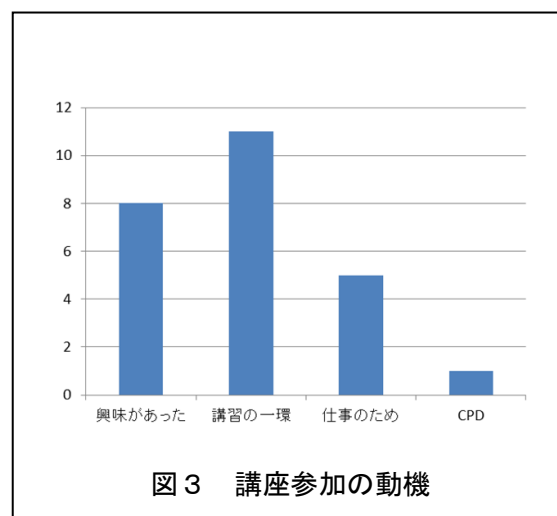


図 3 講座参加の動機

4. 研修会状況について

10 月は「行動原則」を基本課題として、「技術者倫理ケーススタディー」を行った。前半が技術者倫理事例研修に向けての導入研修、後半が事例研修(ケースメソッド)であった。導入研修では、①技術者倫理の基本、②身近な事例を題材にした技術者倫理の考え方、③ケースメソッドの本質と要件を学び、その後のケースメソッドでは、実際の事故事例を題材に、問題発見・解決を体験した。

◆ 導入研修について

金沢工業大学科学技術応用倫理研究所客員教授大来氏から、「技術士倫理の入り口」と題して、導入研修として事例を交え講演いただいた。

まず、参加者の意見を求めながら技術者倫理の基本について話された。続いて、身近な事例を交え、技術者倫理の考え方について解説された。さらに、安全と安心、安全設計と本質安全の考え方、リスクの許容と制御について解説された。最後に「ケースメソッド」について、その本質と要件についての説明がなされ、後半への導入となされた。



写真 1: 大来氏の導入研修講演

◆ 事例研修（ケースメソッド）について

総合警備保障株式会社開発企画部技術総務室・日本技術士会理事の川畑氏より電気学会倫理委員会発行の「技術者倫理事例集」の中から、取り上げる事例である「エレベータの事故」について説明された。



写真 2: 川畑氏の事例研修解説

その後、参加者を 4 班に分け「各々の技術者はどう行動すべきか、各位は立場にあるときその行動ができるか、できなければなぜか」をポイントとして、班ごとに討議を重ね、最後に A3 用紙に手書きした資料としてまとめた。

発表は、作成した資料をタブレット端末で撮影し、タブレットより画像をプロジェクターで映写し行われた。タブレット端末を用いることで画像の前後の送りや、拡大、縮小がスムーズに行えた。発表に引き続く質疑応答においても活発に討議がなされた。

最後に、川畑氏よりケースメソッドの意義について改めて解説をいただき、その後川畑氏と修習委員会の鳥養より講評をいただき、今回の研修会を終了した。



写真 3: 実習におけるグループ作業の状況

5. 情報交流会

研修会終了後、主催者、参加者がお互いに労をねぎらい合うとともに、研修内容をふり返りながら情報交流を行う有意義な時間となった。また、二次試験筆記試験の合格発表を控え、本年受験した修習技術者からは期待と不安の交じった話が聞かれた。

参加者は、築かれた人間関係を今後役に立てていただきたい。

以上